

**地域の皆さまとともに歩んで20年!**

当院は平成5年7月に開院し、今年で開設20年を迎えることになりました。開院以来、「地域医療支援病院」として、患者さんがかかりつけ医と当院の医師とで、安心して切れ目のない医療サービスを受けていただけるよう努めてまいりました。

今後とも、患者さんや地域の先生方から期待され、満足いただける病院となるために、一つひとつ前向きに取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

**近年のトピックスから・・・**

**診療体制の充実**



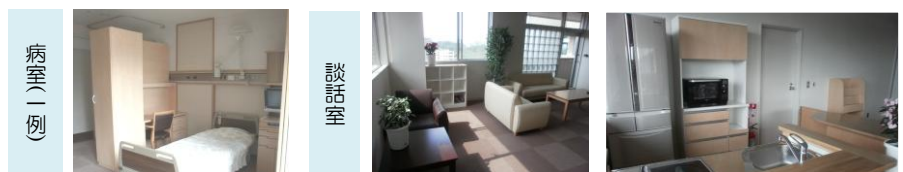
- 平成17年1月より休止していました小児科の入院診療を平成23年6月より再開しました。小児科医による24時間365日の小児科診療をおこなっています。
- 皮膚科では平成23年4月より医師が常勤となり、入院診療にも対応しています。
- 平成21年9月より休止していました婦人科の入院診療を平成24年3月より再開しました。本年4月からは、婦人科のセカンドオピニオン外来を開始しました。セカンドオピニオン外来は、脳神経外科、外科(消化器)、泌尿器科、婦人科の4領域を行っています。
- 本年4月及び5月に常勤の糖尿病専門医が着任しました。糖尿病専門外来は木曜日を除く月～金曜日に診療を行っています。

**内視鏡室の拡充**



今年度は、内視鏡検査の充実を図り、内視鏡室を拡充しました。検査室を従来の2室から3室に増室、ファイバースコープ等の医療機器を最新のものに変更しました。ご希望により経鼻内視鏡検査も可能です。患者さんにより快適に検査を受けていただけるよう、前処置スペース、回復室、更衣室、トイレも整備しました。

**緩和ケア病棟開設**



本年7月には緩和ケア病棟を開設しました。根治困難な悪性腫瘍(がん)により生じる身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛に対して、多職種チームで患者さんとそのご家族に対応させていただきます。入院された場合は、病気に対する治療ではなく、症状を緩和するための医療が中心となります。症状が改善され、状態が安定したら療養目的に退院し、外来通院へ移行したり、在宅医療や近隣の医療機関への紹介も可能です。

# 今月の医療

～こんな治療・検査をご存じですか

ぜんじゅう し じんたいさいけんじゅうつ

## 【前十字靭帯再建術について — 整形外科 —】

### 前十字靭帯損傷（断裂）になるとどうなるか？

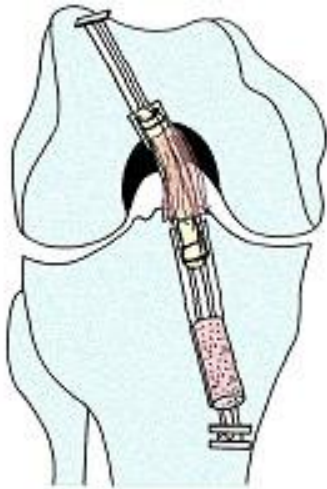
前十字靭帯は大腿骨（ふとももの骨）と脛骨（すねの骨）をつないでいる関節の中にある靭帯です。大腿骨に対して脛骨が前方にでることと回旋（ひねり）をおさえて膝関節を安定させる役割をしています。よって膝関節に異常なひねりが加わって損傷しますと靭帯に正常な緊張がなくなり緩みが生じて関節の安定性が損なわれ、膝が容易にガクッと外れるような“膝崩れ”の症状が残ります。

### 切れたあとはどうなるのか？

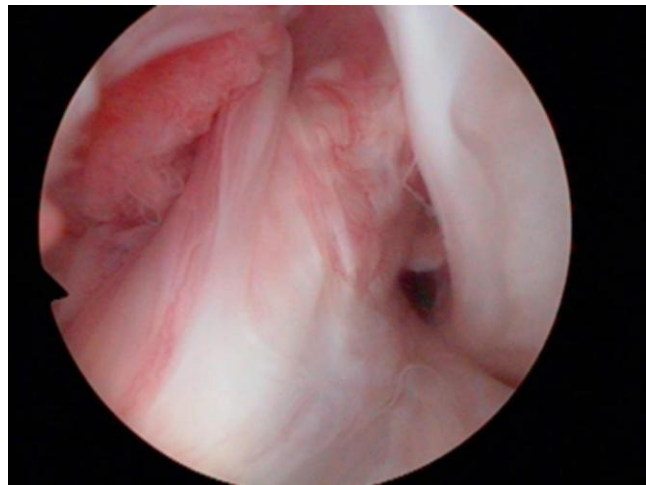
切れた前十字靭帯が自然に癒合することはまれであり、一般的にスポーツ復帰を目標とした場合は手術以外の保存療法はほぼ無効とされています。そのまま放置した場合はくりかえしの“膝崩れ”によって関節内の半月板や軟骨が痛み、いずれ変形性膝関節症（関節軟骨がすり減って痛む高齢者に多い疾患）なる恐れがあります。

### 前十字靭帯再建術とは？

自分の組織を用いて再建する関節鏡視下膝前十字靭帯再建術は切開は最小限で大きな合併症がなく術後の成績も安定しているため有効な治療方法として確立されています。サッカー、ラグビー、アメフト、バスケットボール等のトップレベルの数多くの選手が術後も復帰し、けがをする前と同様に活躍しています。



再建靭帯の両端は人工靭帯に連結して金具で留める



再建した前十字靭帯（術後4年経過）

手術は膝関節を構成する大腿骨と脛骨の最適部位に関節鏡を用いて細いトンネルを作製し、そこに採取加工した腱を貫いて上端と下端を金具で固定することで膝の安定性を得ることを目的におこないます。術後2日目から松葉つえを用いて歩行練習を開始して10日目前後で退院します。その後2週間から1カ月ぐらいの間隔で外来通院をしながらリハビリテーションを続けます。スポーツ復帰は術後6-7カ月以降を目標にしております。

しかしすべての人（選手）に適応があるわけではありません。当院では慎重に適応を吟味して行っております。もしご質問やご希望があればお気軽に外来担当医までご相談ください。

整形外科医長 : 瀬戸 宏明

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。